

静岡デザイン専門学校におけるアパレルCAD授業見学

御殿場高等学校 生活創造デザイン科 田中悟子

1 アパレルCAD授業見学にあたって

本校は、静岡県内公立高校唯一の家庭に関する専門学科であり、スマート専門高校の指定を受け、現在、来年度設置にむけて、アパレルCAD「ユカ&アルファ」の設置工事をしているところである。今後は、ファッションデザインやファッション造形基礎、ファッション造形の授業での型紙作成の際に取り入れていこうと考えている。静岡デザイン専門学校では、本校と同じアパレルCAD「ユカ&アルファ」を使用して授業を行っていることもあり、今回の授業見学に至った。

2 施設内容

使用しているパソコンは「mouse」、液晶ディスプレイは27型ワイドサイズで設定されており、とても見やすかった。1教室に4列30台パソコンが設置される中、生徒数は18人（定員20人）で、隣同士、教えあいやすい環境にあった。

3 授業内容

ブラウスの型紙を作成する2時間続きの2時間目90分授業を見学させていただいた。全部で30時間を計画しているうちの14時間が終わったところであるとのことだった。縫製を工場に依頼する場合も、CADのデータで送るため、このような授業の取り組みは必要である。

①カフスの作成

幅5cm、長さ26cmのカフスで、打合せを1cmとし、作成。（角丸にアレンジしてもよい）

②すべてのパーツに名称を記入

プロパティとして、「名称、生地名、枚数、サイズ」を8パーツ（袖、カフス、後ろ身頃、後ろ衿見返し、後ろ脇、前身頃、前見返し、ポケット）に記入。その際、型紙の差し込み可能か、一方向かわかるよう記入。一方向に型紙を置く例として、コーデュロイやボアなど具体的に生地名を提示しわかりやすく、図解していた。

③縫い代を入れる

すべての縫い代を仮に1として入れて、後で変更するという方法で、行っていた。縫い代を0にする個所は、後ろ中心、後ろ衿見返し中心と衿ぐり奥、前見返し奥。縫い代を3cmにする個所は、ポケットの上部。

④合わせ角

後ろ身頃と前身頃のネックポイントは直角でなければ、縫う時に不自然であることを伝え、合わせ角の方法を示していた。また、見返し同士のネックポイントも同様であった。

⑤ボタンとボタンホール作成

前身頃に1.3cmで厚み0.3cmのボタンをつけることを想定し、基準線に直角になるよう、等分割にし、ボタンをつける。上を1.5cm、下を1.2cm開けて、6個付けることを指示して、等分割を6に指示をすれば自動的に配置される。中心からの飛び出しを0.3cmとした。

カフスのボタンやボタンホールについても、少し設定を変えただけで、スムーズにつけることができていた。

⑥布目線を記入

すでに型紙に書いてある線を利用する場合と新たに作る場合がある。前者は、袖、後ろ身頃、後ろ衿ぐり見返し、前身頃、前見返し、カフスの6つ、後者はポケットと脇で、それぞれやり方を指示し、それをもとに各自行っていた。

⑦輪マークを記入し、型紙を反転

背中心と後ろ衿ぐり見返しの輪の部分にマークをつけ、ミラー作成で型紙を反転させる。工場には、反転したものすべてのデータを送ることを付け加えていた。

4 学生の反応

2コマ続き7回目の授業とのことだったが、学生はとても慣れている様子だった。わからないことは、学生同士教えあって、学生同士で伸びている様子がうかがえた。どうしてもわからないことは先生に伺っていたが、90分授業の中で3～4回程度であることからわかるように、何度も試行錯誤しながらの学びあいが多い授業だったように思う。

5 全体を通して感じたこと

これから、行われるアパレルCAD「ユカ&アルファ」の講習をもとに、授業を組み立てていくわけだが、最初はのりしろ付きのサイコロから始めるとよいということを伺うことができた。また、生徒同士の学びあいがとても大切であることを感じた。一方的な教授より、学びあいをしたほうが、定着が良いそうである。その雰囲気づくりを教員がしていけばいいということも分かった。簡潔にわかりやすい教授方法もさることながら、キーポイントになる生徒を見極め、どのように生徒を配置し、席を作っていくのかも重要であると考えた。

このような機会を与えてくださった静岡県産業教育振興会の皆様、静岡デザイン専門学校の方、ありがとうございました。

